



今年も看護師の確保・養成・定着の取り組みにご協力をお願いいたします

看護部長 松浦ときえ

2016年、新たな年の幕が開きました。今年もどうぞよろしく願います。

2015年度京都保健会看護部では、看護師の確保・養成、教育活動、看護の連携の課題など様々な取り組みを行ってきました。



中央病院はセンター病院として入院医療の中心を担うことは勿論のこと、教育においても看護の質向上に向け救急看護や認知症、緩和ケアなど認定看護師を中心に専門的な学習会やセミナーなどに旺盛に取り組んでいます。

病院と在宅の連携を強化するために、中地域域では病院看護師と診療所や訪問看護ステーションが一緒になって事例検討会も毎月開催され連携をすすめてきています。また在宅際は訪問看護認定看護師があらたに誕生しました。

12月6日には京都民医連として原発事故から自主避難された方々の子ども避難者健診を取り組み、小児科診療所からの要員をはじめ20名を超える看護師が参加しました。

小児科アンケートや暴言暴力・ハラスメントアンケートにも多くの職員にご協力いただきました。結果を分析して報告や学習会の開催などを予定しています。

看護師確保の課題では、2016年4月入職の京都保健会新卒看護師内定者は目標40名に対して、現在37名の予定です。昨年12月5日には看護師国家試験の全員合格をめざして、「京都民医連国試対策講座」が行われました。2月の試験本番まで「国家資格」を得るための勉強が続きます。頑張れ受験生！

京都民医連中央病院ではこの間、看護の仕事にブランクがあつて復職するのが困難な方を対象に、2か月に1回復職セミナーを開催し、医療・看護情勢、感染予防、医療安全の学習や病棟体験などを実施しています。セミナー参加者から非常勤採用に繋がっています。

吉祥院病院、京都協立病院でも職員紹介やつながりなどを活かし、看護師、看護補助者の採用に力を入れていきます。

中央病院総合移転の事業をすすめる上で、看護職員の確保・養成の課題はますます重要となつていきます。看護学校の入試も始まっています。奨学生の紹介はもとより高校生一日看護体験などの取り組みを通じて、民医連看護を広く多くの方に知っていただく活動を今後も進めていきたいと思っています。皆さんのご支援・ご協力を引き続きよろしくお願い致します。

友の会 活動家紹介

運営委員 相根美佐子さん



長年、運営委員をしていただいている相根美佐子さんを紹介します。居住の地域で高齢者

サロンの運営に関わっておられ、昨年10月より開始した友の会の「元気サロン」立ち上げから、他の委員さんと協力してお世話をさせていただいています。

運営委員会では、率直な意見を述べられます。「私自身、長年友の会に入っているが、いままで友の会の良さを感じることはなかった。やっぱり、せっかく入ってもらおうのだから、入って良かったと思ってもらえる友の会になくちゃね」そして「友の会が病院や診療所の組織ではなく、独立した自主的な組織だということが最近ようやく分かってきた」など。これからますます友の会の地域の活動が求められます。明るい笑顔で、「入って良かった友の会」にしましょう。

(京都協立病院 高野俊二)